

開創一〇二五年・妙見大祭九〇〇回奉祝記念事業

御奉賛のお願い

謹啓、時下愈々御健勝のこととお慶び申し上げます。平素、氏子および崇敬者の皆様には、敬神の念夙に篤く、千葉神社の諸行事に御協力を賜り、まことに有難く感謝申し上げます。

さて当千葉神社は、平安時代より「千葉の妙見様」として広く慕われ、厄除開運・八方除の大神様として関東一円の善男善女の深い尊崇を集めてまいりました。先の大戦後は、朝夕に讃仰される千葉市民はもとより、赫灼たる御靈験を慕い奉る全国各地からの参詣者も年々増加の一途をたどったことから、開創九九〇年の佳節にあたる平成二年（一九九〇）を絶好の機会と捉え、我国初の重層社殿の建立を主眼とする「平成の大造営」により境内地の面目を一新致しました。爾来、妙見様の万民救済・渴仰礼拝の御神徳を求めて来られる崇敬者・参拝者が年毎に漸増致しており、殊に昨今は更にもその御力に縋ろうとする人々が急激に増え、初詣や七五三の時期を中心に各種対応に苦慮致す状況が顕在化してきております。

そこで、関係者一同協議の結果、これからの時代に相応しい神社施設の充実に思いを致し、元々境内東側に位置した大鳥居・獅子山・燈籠等を一旦解体の後、耐震補強を施しつつ移設再構築すると共に、神符守札授与所・木札記名所等を集約することを旨とする参集殿の増築と、建設以来約三十五年が経過した参集殿の各種設備更新・内装の改修を全面的に施すことと相なりました。

折しも、当社は令和七年（二〇二五）には、開創一〇二五年の佳節を迎えると共に、翌令和八年（二〇二六）には当社「妙見大祭」が九〇〇回の節目を迎え、また同年は歴史的関わりの深い千葉の街も開府九〇〇年を迎えることとなります。これらを合わせて奉祝する記念事業として本工事に着手致すことになりました。時代は変われども人々の精神的支柱として神社が果たす使命は、未来永劫に重要不可欠のものであります。その歴史性から見ても当社こそ政令指定都市千葉市民の心の故郷であり、全国各地に鎮座する御分霊を通して御本尊・千葉大妙見の御加護を願う崇敬者の心の拠り所でもあります。

就きましては、本事業が氏子崇敬者の皆様方におかれましても、宏大無辺なる御神力をお持ちの妙見様との御縁を更に深め、その靈妙なる奇瑞がいただける絶好の機会かと存じますので、何卒左記により各人からの御浄財の御奉納を賜りたく、茲にお願い申し上げます。

敬具

令和五年九月一日

千葉神社 宮司 山本 陽 徳

氏子崇敬者御一統様

記

- 一、奉賛金 募金額 八千万円 （総事業費 八億円の内、神社拠出金 七億二千万円）
- 二、奉賛金 一口 五千万円より
- 三、奉賛金 募集期間 令和五年九月十日 ～ 翌令和六年九月三十日
- 四、奉賛金の受付は、千葉神社社務所受付にて、左記申込書に御記入の上、御納入の程、お願い申し上げます。
- 五、奉納者の皆様には御芳名を社報「妙見だより」に掲載し、広く顕彰させていただきます。

千葉神社 開創一〇二五年・妙見大祭九〇〇回 奉祝記念事業 奉賛寄付申込書	
金 円 也	
奉納者名	令和 年 月 日納付
〒	住所
電話番号	備考